



淀川におけるマイクロプラスチックの汚染実態把握

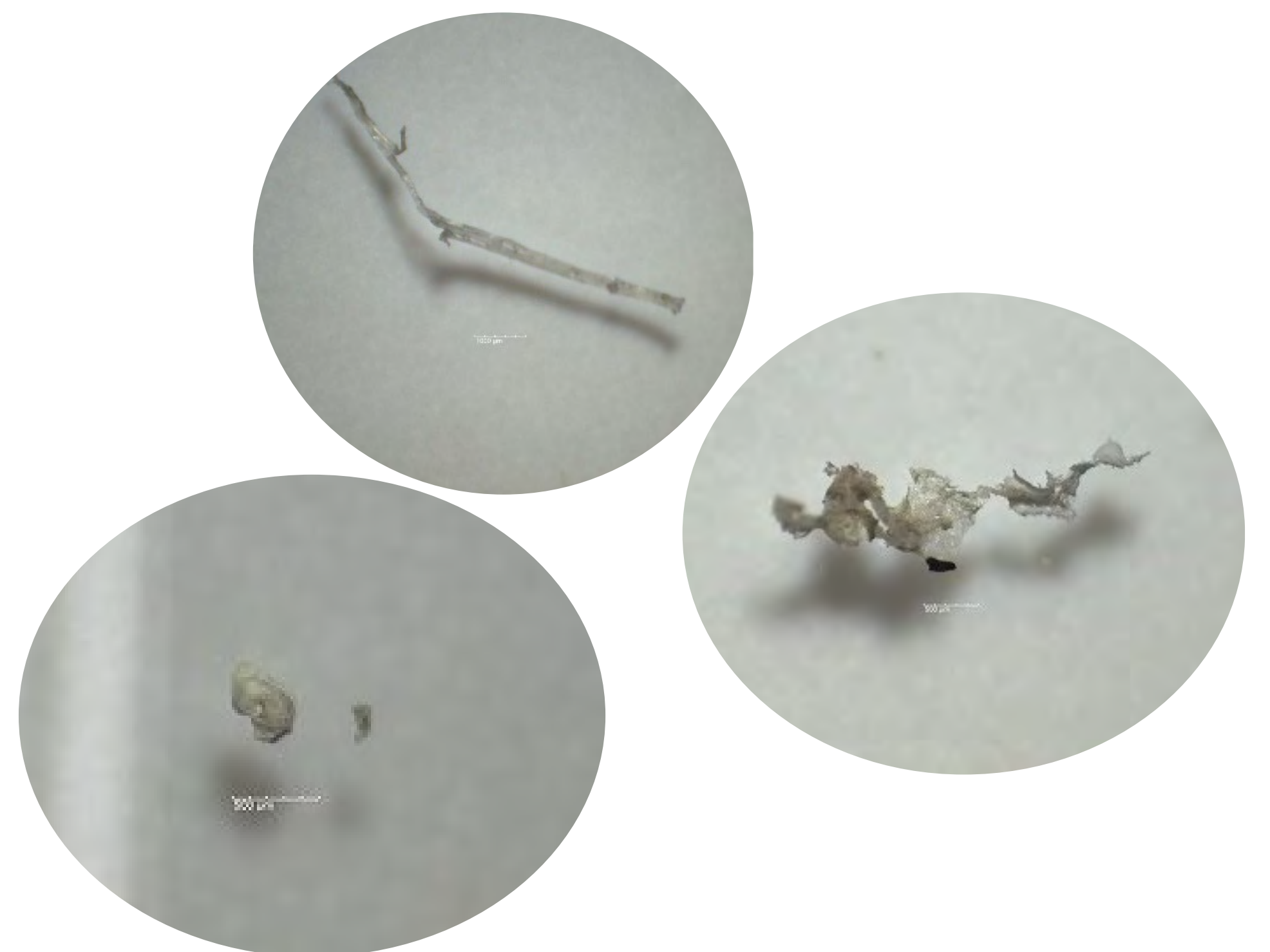
淀川において、微小なプラスチック（マイクロプラスチック）の汚染実態や、生物に与える影響について調査を行っています。

マイクロプラスチックとは

- ポイ捨てなどにより環境中に放出されたプラスチックは、太陽光、温度変化、生物分解などの影響により小さくなります。
- 5mm以下のものをマイクロプラスチックといいます。
- 近年の研究で、河川・湖沼・海洋などに広く存在していることや、実験条件下における生物への悪影響が明らかになり、自然環境下でも生物に及ぼす影響が心配されています。



太陽光
温度変化
生物分解



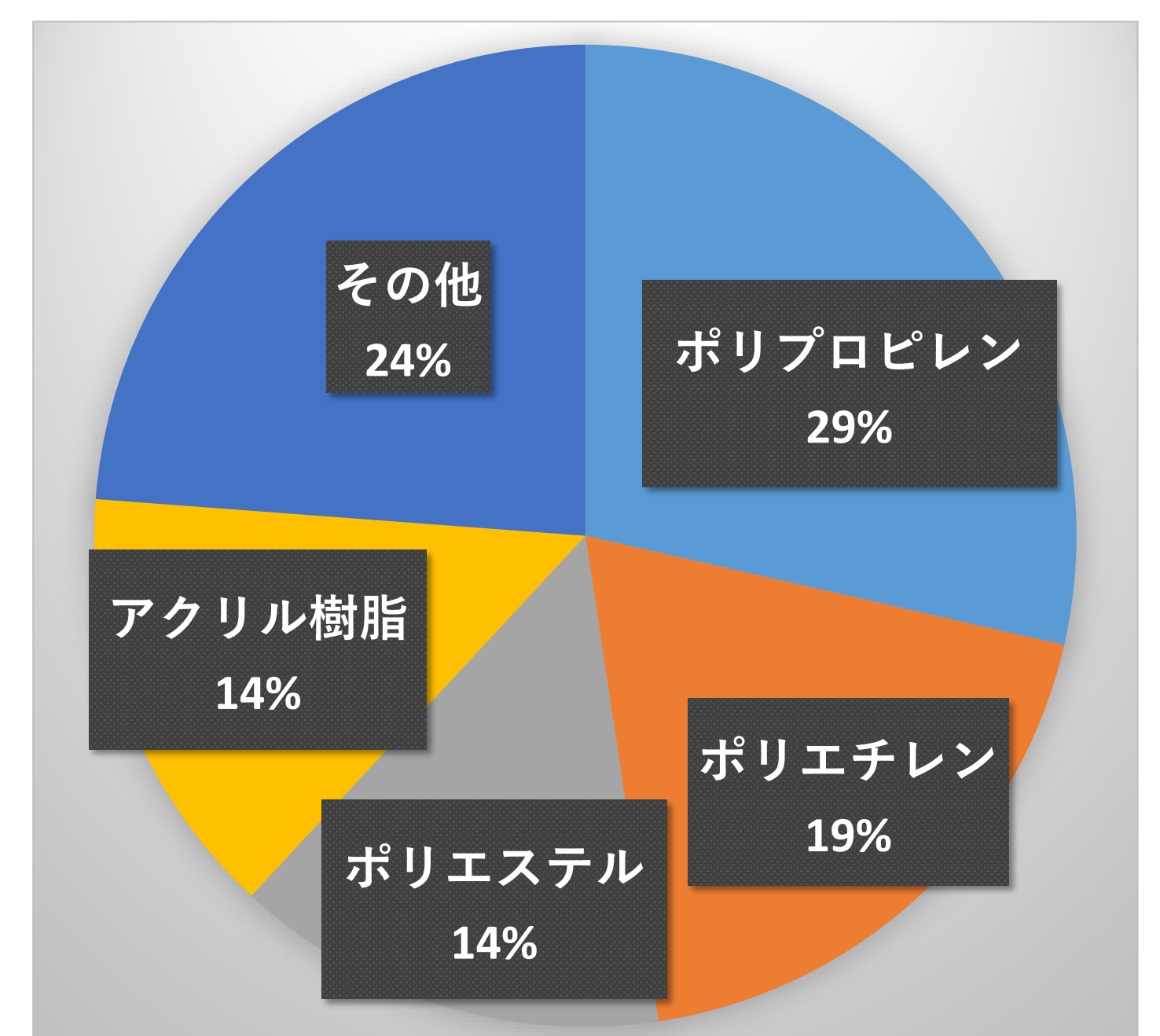
環境中に放出されるプラスチックごみとマイクロプラスチック

淀川におけるマイクロプラスチックの実態把握

- 淀川の本流とワンドの底質で調査したところ、調査地すべてでマイクロプラスチックが検出されました。このことから、淀川の底質は広くマイクロプラスチックで汚染されていることが明らかになりました。
- マイクロプラスチックは、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリエステル、アクリル樹脂などいろいろな成分が含まれており、様々な経路でマイクロプラスチックが流れ込んできたことが予想されました。
- また、一部の二枚貝からは、エラや軟体部からマイクロプラスチックが検出されました。
- 今後は、二枚貝や、二枚貝に卵を産む希少なタナゴ類などに含まれるマイクロプラスチックを調査するとともに、生物への影響について研究を進めていきます。

淀川の底質から検出されたマイクロプラスチックの個数密度

地点		個数密度 (個/g乾重量)
枚方大橋	本流	0.59
樋ノ上	ワンド	0.31
庭窪	ワンド	1.06
赤川	ワンド	0.21



マイクロプラスチックの成分